ハタチ基金へのご支援のお願い

ハタチ基金は皆様からのご寄付によって活動を実施しています。被災地の子どもたちを支援することは、
被災地の復興、そして日本の未来を作ることに繋がると私たちは信じています。

個人で継続的に支援

サポート会員（呼びかけ人）として、月々1,000円からクレジットカードで継続的にご寄付。

個人で都度支援

ご都合の良い時にご希望の金額を、銀行振込またはクレジットカードでご寄付。

法人・団体で都度支援

ご都合の良い時にご希望の金額を、銀行振込またはクレジットカードでご寄付。

お申し込みについて

❶下記WEBサイトにアクセスし、
ご希望の方法をご選択の上、お申し込みください。
（銀行振込またはクレジットカード）
www.hatachikikin.com/shien

ハタチ基金へのご支援は税制優遇の対象になり、
所得控除または税額控除のいずれかをお選びいただけます。
※お住まいの自治体によっては住民税も控除の対象になります。
※詳しくはお近くの税務署にお問い合わせください。

❷銀行振込の場合、下記口座にお振り込みください。

三菱東京UFJ銀行 高円寺支店（店番号：155）
公益社団法人ハタチ基金
コウエキシヤダンホウジンハタチキキン
シヤ）ハタチキキン
口座番号：普通 0144274

ハタチ基金

公益社団法人ハタチ基金
〒166-0003 東京都杉並区高円寺南3-66-3 高円寺コモンズ2F
TEL：03-3330-0005（平日10:00～19:00）
www.hatachikikin.com



ハタチ基金

ハタチ基金 2014年度活動報告書

Report 2014

ハタチ基金とは、
東日本大震災の被災地の子どもたちに寄り添い、
20年間継続的に支援を行う基金です。



家族を失う。友達を失う。

こんなにも大きな試練を一人で乗り越えていくことは、

とても大変です。しかし、長期にわたり

「君はひとりじゃない」と励まし、子どもたちに

やさしさを届け続ける存在がいたら。

きっと試練を乗り越えるための原動力の

一つになれるのではないのでしょうか。そしてきっと。

乗り越えた試練の分だけ

強さと優しさをもった大人となり、

社会の中で起こる次なる試練の解決にも

取り組める人となれるはずです。

そのようなおもいでハタチ基金は設立されました。

もくじ Contents

1 もくじ
2 ハタチ基金とは
3 あの日から4年 被災地の現場から見えること
5 支援団体の活動報告
14 被災地からのメッセージ
15 個人からのご支援
17 企業・団体からのご支援
18 支援者様からのメッセージ
19 会計報告
21 代表のおもい
22 運営団体紹介

ハタチ基金とは、東日本大震災の被災地の子どもたちに寄り添い、20年間継続的に支援を行う基金です。

子どもたちに学び・自立の機会を提供するために、
復興状況や現地のニーズに合わせて支援活動をしている団体へ助成を行います。
皆様の想いとともに寄せられたご寄付を、確実に子どもたちのために役立てます。

0歳から20歳までの各年代の子どもたちへの
支援事業が助成の対象です。



2014年度の支援事業

学校外教育バウチャー提供事業
（事務所：宮城県仙台市）

※全国に避難している児童生徒を含む
被災児童生徒が対象

塾や習い事に通えなくなった
子どもたちへ、教育の機会を



運営：公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

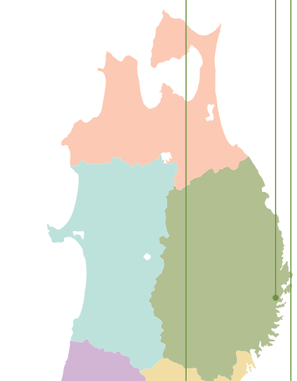
ふくしまインドアパーク
（福島県郡山市）

放射能によって外遊びができない
福島の子どもたちのための屋内公園

※2015年3月末に運営を終了しました。



運営：認定NPO法人フローレンス



コラボ・スクール大槌臨学舎
（岩手県大槌町）

コラボ・スクール女川向学館
（宮城県女川町）

勉強する場を奪われた子どもたちに、
学べる場を



未来創造事業

運営：認定NPO法人カタリバ

みなみそうまラーニングセンター
（福島県南相馬市）

子ども一人ひとりに合わせた
居場所づくりとサポートを



運営：NPO法人トイボックス

あの日から4年
被災地の現場から見えること

被災地の子どもたちが自信をもってハタチの日を迎えられるように。
様々な年齢の子に様々な場面でその時に必要な支援をしたいとの思いから、ハタチ基金は立ち上がりました。
あの日から4年。2015年3月9日に開催した「被災地は、忘れられたのか？〜被災地こども支援の現場から見えること 震災4周年フォーラム〜」より被災地の“いま”をお伝えします。

被災地を取り巻く状況は刻一刻と変化を遂げています。4年という時間を経て、前に進んだと思える部分もあれば、解決に向けてより一層の努力が必要な課題も浮き彫りになってきました。皆が一緒に「頑張ろう」と思えた震災直後に比べ、必要としている人に適切な支援を届けることの重要性は増しています。光と影の対比が明確になる中、子どもたちの心に及ぼす影響も見過ごせない状況になっています。たとえば被災地では、「家庭に経済的な余裕がない」ことを考慮して現実的な進学先を検討している子どもの割合が、全国よりも9.1ポイント多い結果が出ています図-1。また、定期的にアルバイトをしている子どものうち、家庭での学習時間をとっていない子どもの割合は、アルバイトをしていない子どもの約2倍にのぼります図-2。経済状況の悪化によるアルバイトで、家庭学習時間が減少したり、学校外教育を受ける機会が失われている可能性も考えられます。これらのことは、所得の格差が子どもたちの希望の格差と密接につながっていることを示唆しています。

参考資料：「被災地・子ども教育調査」分析結果の報告（公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン,2015）



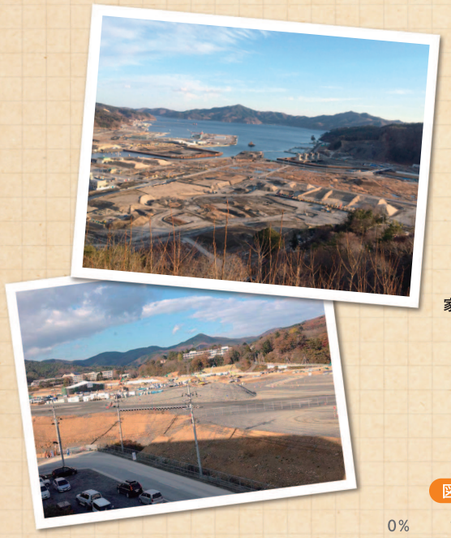


図-1 **現実的な進学先の理由** ※中学3年生が対象

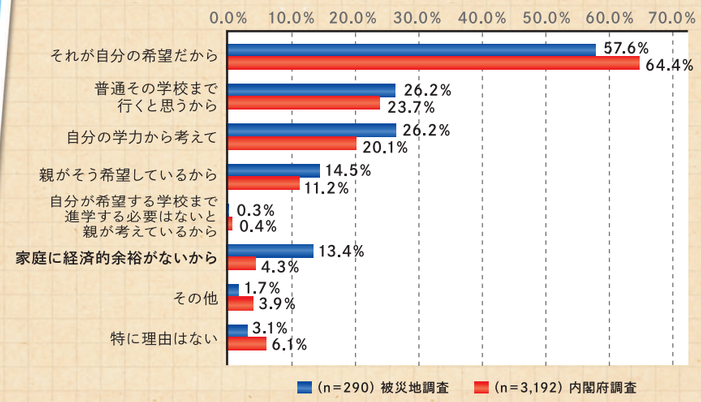
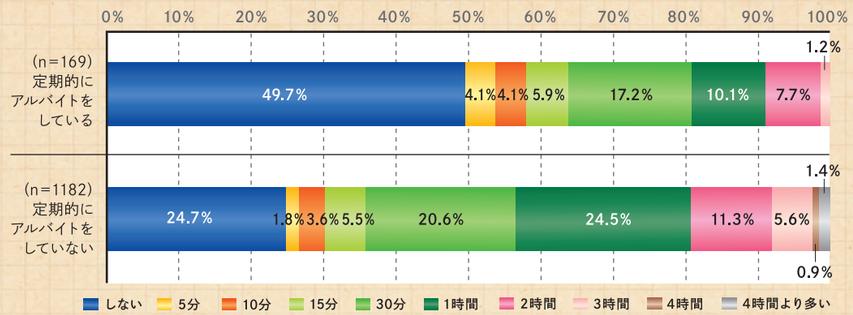


図-2 **アルバイトと学習時間の相関（宿題以外の一日の学習量について）**



※調査対象は東日本大震災で被災した小学生〜高校生、保護者。
●有効回答数：子ども1,987件、保護者2,338件（子どもへの調査は中学生・高校生のみに実施）
●主に岩手・宮城・福島が中心。ただし、一部全国に避難中の子どもを含む。
●チャンス・フォー・チルドレン「教育バウチャー」応募者、東日本大震災復興支援財団「まなべる基金」奨学生を対象に実施。

支援団体が見つめた4年間とこれから

認定NPO法人フローレンス（ふくしまインドアパーク）

駒崎 弘樹 / 公益社団法人ハタチ基金代表理事・認定NPO法人フローレンス代表理事



郡山市でようやく4つの屋内公園を作ることが決定され、公的機関に役割をバトンタッチすることができました。一方、東北の求人倍率は高くなってきていますが、産業が育ってきているかといえば、まだまだな状態が続いています。働き手が不足しているにもかかわらず、待機児童が増えて、女性が働けないという問題も生じています。フローレンスは待機児童数が全国でもトップクラスの仙台で、この問題の解消に向けた小規模保育に取り組みます。



NPO法人トイボックス（みなみそうまラーニングセンター）

白井 智子 / 公益社団法人ハタチ基金代表理事・NPO法人トイボックス代表理事

最近ようやくセンターの子どもたちが落ち着いてきて、社会的スキルのトレーニングなどもできるようになりました。特にこの1年、子どもだけではなく、被災地の大人たちも疲れているのを感じます。複雑な大人の気持ちを察して子どもたちも傷ついています。発達障がいではなかった子どもたちの中でも、震災をきっかけに落ち着きを失ったり、以前とは違う行動をするようになった子どもたちがたくさんいます。

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン（学校外教育バウチャー提供事業）

今井 悠介 / 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン代表理事



これまで約800人に、習い事や塾など、学校外教育機関で使えるバウチャー（クーポン）を配付しました。支援対象者は審査をして選んでいます。本来ならすべての応募者にバウチャーを配付したいのですが、いまだに1,800名（定員の13倍）もの子どもから応募があり、支援が行き届いていません。震災直後は「みんなで頑張ろう」という意識が強かったのですが、この4年間で、前に進んでいる人と進んでいない人の間に差が出始めました。「私たちの時間は、2011年3月11日で止まったまま」、そう語る人が被災地にはまだまだたくさんいます。



認定NPO法人カタリバ（コラボ・スクール女川向学館・大槌臨学舎/未来創造事業）

今村 久美 / 公益社団法人ハタチ基金代表理事・認定NPO法人カタリバ代表理事

学校が子どもたちの心のよりどころになって欲しいですが、ご自身も被災者でありながら子どもたちと向き合っている先生たちも、心が疲労しています。そのため、コラボ・スクールでは、先生の手が行き届きにくい不登校の生徒のサポートや、支援者と学校を繋ぐコーディネーターの役割も学校や教育委員会と連携して担っています。一方、ポジティブな面も。津波による被害が甚大だった宮城県の女川町では、「将来の夢や希望を持っている」「地域や社会をよくするために、何をすべきか考えることがある」と答える中学生の割合が全国平均より高いという事がアンケートでも明らかになっています。

支援を必要とする子どもたちへ

困難と悲しみを生きる力に変え、乗り越えてきた子どもたちですが、その環境はいまだ十分に整備されたとは言えません。進まぬ復興に疲れた大人の心理状態を、子どもたちは敏感に感じとっています。そしてそれは、時間が経過した今だからこそ、新たなストレスとなって子どもたちの心に閉塞感を生んでいます。しかしながら、この流れとは逆行するように、国の集中復興期間と位置付けられた期間は2015年度をもって終了を迎えます。今後の復興事業については、現在予算の枠組みを策定することとしていますが、復興財源の一部を被災した市町村が負担する方針が示されるなど、地元の人びとからは「復興がますます遅れるのではないか？」といった不安の声があがっています。だからこそ、ハタチ基金は約束します。被災地の子どもたちに、必要な支援をしっかりと届けることを。そして、震災後20年を迎えるその日まで、必ず継続していくことを。私たちの想いが未来を担う子どもたちの力になることを信じて…。

ふくしまインドアパーク
（認定NPO法人フローレンス）





放射能によって外遊びができない福島の子どもたちのための屋内公園

（ 課題 ）

福島の子どもたちの肥満傾向は高水準で推移 安心して遊べる場所が必要です

放射能の問題は、4年経過した現在も収束はせず、福島県では運動不足や避難生活のストレスが原因で肥満傾向児の割合が、6つの年齢で全国最多となっており、3年連続で高い水準になっています。未就学児をお持ちの親御さんは、「除染しても放射線量が戻っているのではないだろうか」と、外遊びに対する不安を感じていると同時に、子どもが体を動かす習慣を身に付けられない不安も感じています。運動能力を補ったり、ストレスを軽減するためにも、安心して遊べる場所が必要です。

（ 活動 ）

子どもたちが安心して遊べる、コミュニティ創出型公園の運営

福島の子どもたちが思いっきり遊べるように、ふくしまインドアパークは2011年12月に郡山園、2012年8月に南相馬園（2014年2月運営終了）をオープンしました。パークには、パークリーダーと呼ばれる施設スタッフが常駐し、お子さんの見守りを行いました。また、イベント開催やボランティアの受入れを行い、コミュニティを創出していく公園として運営していました。





遊び場から コミュニティ創出の場へ

パークでは地元郡山の英語教室や体操教室、そしておもちゃ屋さんや本屋さんが定期的にイベントを開催してくださいました。このようなイベントがパークに集まるお子さんや親御さん、そしてボランティアや施設スタッフなど人と人とがつながるきっかけになり、コミュニティの創出につながりました。



郡山市の屋内遊び場等整備事業の決定

地域住民の皆様とフローレンスの活動・思いが郡山市に伝わり、新しい屋内遊び場等整備事業が決定され、平成27年度中に4ヶ所の施設が設置されることになりました。この市の動きにより、「地域のお子さんに安心して遊べる場所を提供する」という震災後の私達の思いは果たされたと考え、平成27年3月31日にふくしまインドアパークは運営を終了させていただきました。

成 果

地域のみなさんに愛され、生活の一部となった屋内公園

2014年度は、毎月開催の英語教室や毎週開催のダンス教室など、15種類のイベントを合計157回開催しました。

「1年間で福島の子ども達を1万人笑顔にする！」を目標に活動してきました。2014年度は、約12,600人のお子さんが来場しました。2011年12月の開園から2015年3月の運営終了まで、3年3ヶ月の間に約41,500人のお子さんが来場しました。

今後のビジョン

これからのフローレンスの被災地支援

東日本大震災から4年が経過し、復興のフェーズや被災者のニーズは変化してきています。被災した東北の中心地である仙台市では、復興が進む中、多くの待機児童を抱えているという問題があります。保育園不足で働けずにいる親御さんをサポートし、経済的な復興を継続的に下支えするため、フローレンスは仙台支社を開設し、現在東京23区を中心に展開している小規模保育園「おうち保育園」を開園していきます。

Florence 認定NPO法人フローレンス

認定NPO法人フローレンス

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-3-7 秋穂セントラルビル2F
TEL. 03-5275-1161(9:00～18:00) Webサイト http://www.florence.or.jp/

「子育てと仕事、そして自己実現のすべてに、誰もが挑戦できるしなやかで躍動的な社会」を目指し、子育てと仕事の両立を阻む最も象徴的な「病児保育問題」の解決に取り組んでいます。非施設型・共済型という日本初の仕組みを構築し、現在首都圏を中心に展開、順次拡大を予定しています。また、08年より収入の少ない働くひとり親世帯の子育てを支援すべく寄付会員制度を導入し、安価な病児保育サポートを開始しています。



みなみそうまラーニングセンター
（NPO法人トイボックス）

5歳～



子ども一人ひとりに合わせた居場所づくりとサポートを

（ 課 題 ）

震災を経て困難な状況におかれている発達障がいなどの課題を抱える子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりを

震災から4年が経過し、常磐自動車道の全線開通や立ち入り制限区域の自動車での通り抜けが可能になるなど、徐々に明るい話題が聞かれるようになりました。環境面での復興は一歩一歩着実に進んでいます。しかしその一方で、ラーニングセンターの利用在籍者は、昨年度の約1.5倍にのぼるなど、まだまだサポートを必要としている子どもが多いことがうかがえます。「学校で落ち着きが無くて…」といった新規利用希望者からの相談も後を絶ちません。年月が経過した今だからこそ、子どもたちが安心して過ごすことができる、そんな居場所づくりが必要です。

（ 活 動 ）

家庭や地域と連携し、それぞれの「いいところ」を伸ばせるようなサポートを

皆さまのご支援により中央教室がオープンし、小学生から中学生まで、より幅広い年齢層に向けてのサポートが可能になりました。また、地域ミーティングへの参加や定期的な保護者会、教育相談、ソーシャルスキルトレーニング、個別指導計画の作成など、一人ひとりの子ども・保護者のニーズに応えられるよう、地域と連携して様々な活動を行っています。





中央教室のオープンにより幅広い年齢層の子どもの支援が可能に

中央教室の開所に伴い、オープニングセレモニーが行われました。当日は、支援者の皆様、保護者の皆様、地域の皆様など、たくさんの方々にお越しいただきました。子どもたちが、「ありがとうございます」と感謝の言葉を述べると、大きな温かい拍手が送られ、その姿に涙する支援者の方も。子どもたちの笑顔は、たくさんの大人に支えられている、そう感じずにはいられない一日となりました。



大阪宿泊学習 自然体験を通じてさらに成長した子どもたち

池田青年連合アトラス様のご協力をいただき、再び大阪での宿泊学習を実施することができました。川遊びやバーベキューなど、普段することのできない経験をした子どもたちは大満足の様子でした。それぞれの子どもが、「集団のルール」を意識して行動する良い機会となりました。ひと回りたくましく成長した姿に、保護者の皆様からは感激の声が聞かれました。

成 果

施設の安定した運営と、新規利用者のサポートのニーズに応えるために

2014年度の延べ利用件数は1,857件でした。中央教室の開所により受け入れられる児童の幅が広がり、利用者の3分の1が、以前はサポートしていなかった中学生という現状です。

継続利用者は通い続けている一方で、新規利用者は昨年度に比べて約1.5倍に増えており、いまなお継続したサポートの必要性を感じます。

今後のビジョン

継続したサポートが必要なたくさんの子どもたちのために、安定した運営体制づくりを進めます

中央教室が開所したことにより、小学生から中学生まで幅広い年齢層のサポートが可能になりました。しかし、利用者の数は現在も増え続ける一方であり、その分ニーズも多様化しています。多様なニーズに応えるために、そして継続したサポートを可能にするために、子どもたちを支える安定した運営体制づくりが必要不可欠です。2015年度は、国の制度を活用して安定したシステムづくりを目指し、より一層充実した支援体制づくりに努めてまいります。

TOY BOX

NPO法人トイボックス

〒550-0014 大阪府大阪市西区北堀江2-17-9
TEL. 06-6543-4770 Webサイト http://www.npotoybox.jp

さまざまな分野の専門家が集まり、教育・エンターテイメントからまちづくりやソーシャルクリエーションまで、多くの活動領域を持つNPOとして活動しています。トイボックスの教育部門であるスマイルファクトリーは現在、大阪府池田市から委託を受け、公教育とNPOの連携としては日本で初めてとなる公設民営の「がっこう」として不登校・ひきこもり・発達障がいなどを抱えた子どもたちや親の支援を展開しています。



学校外教育バウチャー提供事業

（公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン）





塾や習い事に通えなくなった子どもたちへ、教育の機会を

（ 課 題 ）

震災から4年。いまだ募集定員を大きく上回る子どもたちからバウチャー（クーポン）利用の応募が来ています

私たちは、2014年5～9月に被災した家庭2,338件にアンケート調査を行いました。その結果、「年収250万円未満の世帯が、東日本大震災前後で8%増加」、「経済的な理由で塾・習い事に通えない子どもが約68%（全国平均は約39%）」など、被災家庭がまだまだ厳しい状況に置かれていることが分かりました。また、私たちが2014年度のバウチャー新規利用者を募集したところ、定員約160名をはるかに上回る約1,800名もの子どもたちから応募がありました。保護者からは「震災の影響で体調を崩してから収入が安定せず、教育費を捻出できなくなった」といった声が届いています。

（ 活 動 ）

塾や習い事で利用できる学校外教育バウチャーの提供を通じて、263名の子どもたちの学びの機会を支えました

2014年度は、東日本大震災で被災した263名の子どもたちに対して、塾や習い事などの学校外教育サービスで利用できる学校外教育バウチャーを提供しました。現金給付と異なり、バウチャーは使途を教育サービスに限定できるため、確実に子どもたちに教育の機会を届けることができます。





バウチャーを利用できる教室数が3,000教室を超えました

2014年度は263名の子どもたちが、学校外教育バウチャーを利用して学びの機会を得ることができました。バウチャーの利用先は学習塾、ピアノ教室、スイミングスクール等、様々です。利用先は子どもたちからのリクエストに応じて随時追加する仕組みのため、一人ひとりのニーズに合わせた支援を可能にしています。2014年度、バウチャーを利用できる教室数は3,000教室を超えました。



支援を受けた子どもが大学生ボランティアに

定期的に専門家の研修を受けている大学生ボランティアが、進路や学習、バウチャーの利用方法について相談にのり、子どもたちの成長を支えています。2014年度にバウチャーを利用し、この春大学生となった子どもからは、今度は自分が大学生ボランティアとして活動したいという声もあがっています。チャンス・フォー・チルドレンの活動に、新しい支援の輪が生まれようとしています。

成 果

子どもたちは夢や目標に向かって前進しています

●バウチャー利用者数263名

（内訳）◎学年別：小学生36名、中学生114名、高校生113名◎地域別：岩手県33名、宮城県187名、福島県37名、栃木県1名、埼玉県2名、神奈川県1名、兵庫県2名◎住家被害：全壊・原発避難181名、大規模半壊31名、半壊27名◎人的被害：父死亡・行方不明14名、母死亡・行方不明12名、その他親族死亡・行方不明14名

●バウチャー利用率（利用額／給付額）：88.2%

今後のビジョン

バウチャーの利用を希望するより多くの子どもたちに支援を届けます

2014年度は、昨年度から継続してバウチャーを利用している子どもに加えて、新しく136名に支援を届けることができました。しかし、この背景には約1,800名からの応募があり、未だ1,600人超の子どもたちにバウチャーを提供できていません。今後は、大学生ボランティアによる面談等を通じて、子どもたち一人ひとりが効果的にバウチャーを利用できるようサポートすると同時に、より多くの支援を求める声に応えられるよう活動への共感者を増やしていきたいと思います。

Chance for Children

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

〒662-0832 兵庫県西宮市甲風園1-3-12 カミヤビル3階

TEL.022-265-3461 Webサイト http://www.cfc.or.jp/

チャンス・フォー・チルドレンは、阪神・淡路大震災で被災した子どもたちの支援を行ってきた特定非営利活動法人ブレーンヒューマニティーのひとつのプロジェクトとして2009年に発足し、経済的な理由で十分に学びの機会を得られない子どもたちに、教育機会を提供する活動を行っています。『すべての子どもに機会を。すべての子どもに夢を。』をスローガンに、学校外教育機会が保障され、すべての子どもたちにチャンスが与えられる社会を目指しています。



コラボ・スクール
（認定NPO法人カタリバ）

6歳〜



勉強する場を奪われた子どもたちに、学べる場を

（ 課題 ）

長期化する復興に、子どもたちのストレスが顕在化

宮城県女川町と岩手県大槌町は、東日本大震災による被害が特に激しかった地域です。地震発生から4年たった今も、仮設住宅での生活を続ける子どもたちがまだまだたくさんいます。落ち着いて学ぶ場と居場所を失った子どもたちの多くは、集中して勉強する場所を必要としています。また、長期化する復興に、子どもたちの心は大人たちが考えるよりもずっと敏感に反応しています。このことは、日常的に寄り添い、支える空間の提供を継続的に行うことの必要性を表しています。

（ 活動 ）

津波で家を流され、学ぶ場を失った子どもたちのため、放課後の学習指導と心のケアを行っています

東日本大震災による被害が特に激しかった、宮城県女川町と岩手県大槌町に設立したコラボ・スクールは、子どもたちに「震災があったから、夢をあきらめた…」、こうした悔しさを抱いてほしくないとの思いから生まれた放課後の学校です。数学・英語などの基礎学習を中心に、インターネットを使った英会話などの発展的な学習指導や心のケアを行い、未来の復興を担うリーダーの輩出を目指しています。





大槌臨学舎で小学生の部、スタート

2011年の開校以来、中高生を対象とした放課後の学びの場を提供してきた大槌臨学舎に、小学生対象の放課後スクールが開講しました（2014年11月〜）。現在、総勢160名以上の児童・生徒が通っています。臨学舎が、子どもたちに”良い変化”が起きる場所となれるよう、これからもより良い「居場所」を届けます。



宮城県女川町とパートナーシップ協定を締結

女川向学館の活動が認められ、2015年3月にカタリバと宮城県女川町教育委員会は「東日本大震災からの女川町の教育環境の復興のためのパートナーシップ協定」を締結しました。これにより、女川向学館は女川町教育委員会、女川小・中学校との協働体制をより強固にし、女川町全体の教育力向上、教育課題解決に努めます。

成 果

町の教育課題を解決する存在として、学校・保護者・地域との連携を深めています

2014年度は、小学生から高校生まで約320人をサポートしました。

女川向学館へ通う生徒と保護者に行ったアンケートでは、保護者の87％が「向学館の先生・学習サポーターが親身に指導してくれている」と回答。また、生徒の78％が「向学館の先生・サポーターはあなたの話を聞いてくれる」と答え、学習面に加え、心のケアの面においても成果が生まれていることを示しました。また、地域の学びをサポートする存在として信頼関係を深めました。

今後のビジョン

地域との連携を深め、継続的に東北復興に取り組んでいきます

女川・大槌の子どもたちを取り巻く生活・学習環境はまだ万全とは言えません。その証拠に、学力や体力が低下し、心の不安定が顕在化する子どもたちが、地域には多く存在しています。コラボ・スクールは、通学してくる児童・生徒に加え、被災地の教育課題を解決するために、地域との連携を深め、保護者、教育委員会、学校の先生、地域住民などの関係者と共にこれからも継続的に東北復興に取り組んでいきます。

生き抜く力を、子ども・若者へ

NPOカタリバ

認定NPO法人カタリバ
〒166-0003　東京都杉並区高円寺南3-66-3 高円寺コモンズ2F
TEL 03-5327-5667　http://www.katariba.or.jp/

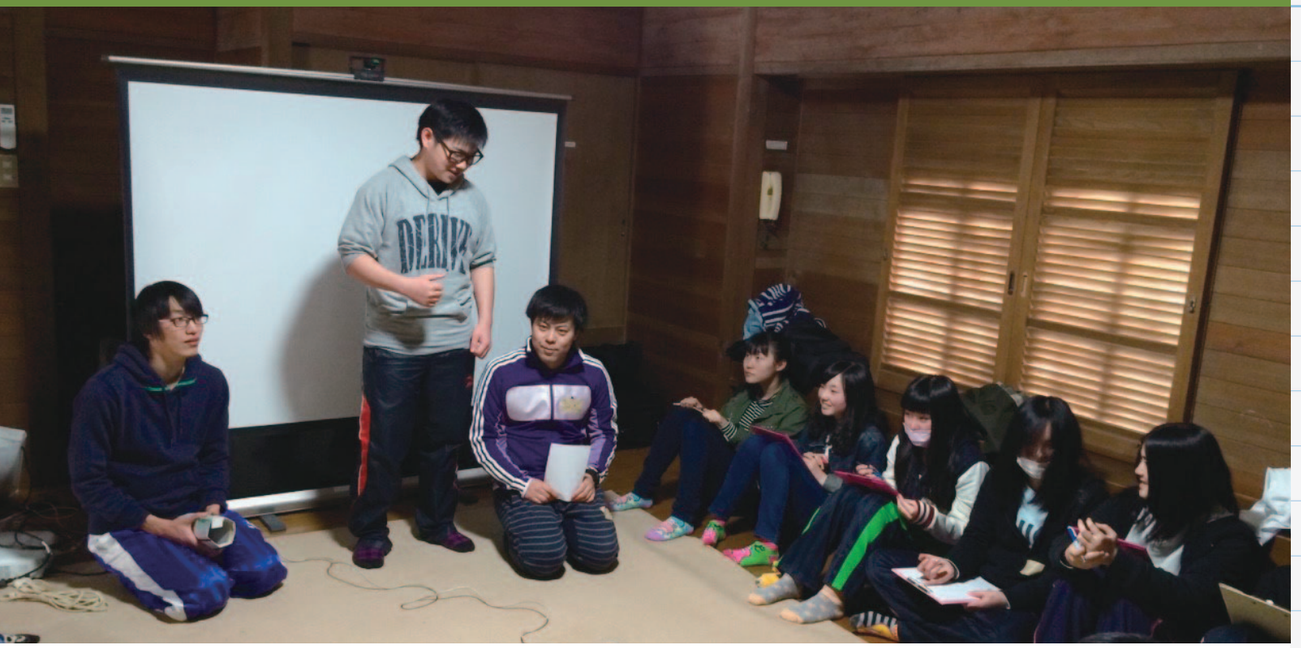
NPOカタリバが取り組む社会課題は、未来を生き抜く意欲や能力が、生まれ育った環境によって左右されてしまうことです。すべての子ども・若者が、自ら思い描いた未来を切り開いていけるために、私たちが育てるのは「生き抜く力」です。首都圏をはじめ全国では、高校生の心に“火を灯す”キャリア学習プログラム「カタリ場」を、東北では、子どもたちのための放課後学校「コラボ・スクール」などを展開しています。



KATARIBA

未来創造事業
（認定NPO法人カタリバ）

15歳〜



東北から未来の復興を支える社会のリーダーを

（ 課題 ）

震災から4年が経過し、町からは瓦礫が撤去され、学校や医療施設が再建し、ライフラインなどのインフラはほとんど整ってきました。しかしながら、住宅の再建や復興まちづくりは遅々として進まず、いまだに多くの方が仮設住宅で暮らしています。また、安定した雇用が少ないことから、町を離れていく人も後を断ちません。このような状況の中、子どもたちは自分たちの希望を抑えこんでしまう傾向にあると言われています。子どもたちが震災を理由に夢を諦めることがないように、「悲しみ」を「力」に変えるサポートが必要です。

（ 活動 ）

未来創造事業では、被災地の中学生・高校生に対し、キャリア学習とプロジェクト学習によるサポートを行っています。震災後の町の課題解決に高校生たちが取り組む「マイプロジェクト」に、女川で8名、大槌で6名の生徒が挑戦し、その活動を応援しました。2015年2月に行われた消防庁主催の「防災まちづくり大賞」では大槌の生徒が日本防火・防災協会長賞を受賞。また、マイプロジェクトで視野を広げ、成長した生徒が防災や町づくりを学ぶ大学に推薦入学を決めるなど、復興を担うリーダーとしての一歩を歩み始めています。

たくさんの人びととの出会いや交流から、育まれる「未来を思い描く力」

2015年3月の「やくそく旅行」には、女川・大槌の中学生21名が上京し、交流学習や企業訪問を行いました。参加した生徒へのアンケートでは、90%が「やくそく旅行を通して、何か行動したくなった」、95%が「出会いについて考え直すことができた」と回答。同年代の仲間との交流、国内外で活躍するリーダーとの出会いは、子どもたちが主体的に未来を思い描く力となっています。



KATARIBA

被災地からのメッセージ



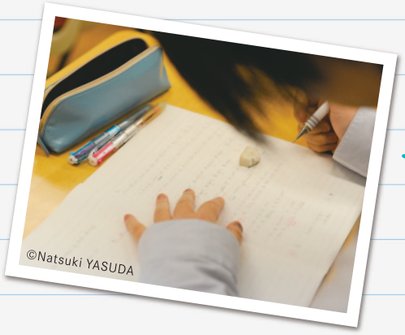
ふくしまインドアパーク

引っ越してきたばかりの頃、どこで子どもを遊ばせたらいいのか分からず、安全に遊べる場所を探していました。パークの存在を知り、何度か遊びに来ると、顔見知りもできました。また、パークリーダーさんに子育ての不安や悩みも聞いてもらい、とても心強かったです。無くなってしまうのは、とても寂しいですが、今後の活動を期待しています。（パーク来園者）

みなみそうまラーニングセンター

宿泊学習から帰ってきた息子が、楽しかった思い出を繰り返し話してくれました。めったにできない経験をして本当に大喜びでした。たくさんの思いを胸に、ひと回りたくましくなって帰ってきた気がします。たくさんの方々の協力があって子どもたちが守られていると実感しています。これからもラーニングセンターの子どもたち、南相馬の子どもたちをどうぞよろしくお願いします。（利用者の保護者）





学校外教育バウチャー提供事業

私は高校3年生の受験生です。私はこのバウチャーで、塾に行って、苦手な科目について勉強しています。将来の夢は災害医療に携わる看護師になることです。災害医療看護師は日本でも数がとても少なく、高度な技術が必要です。そのため、私は高いレベルの大学へ進む必要があります。しかし、私は母子家庭で、たった一人しかいない家族の母が震災の影響で仕事を失ってしまったため、塾へ行くのもやっとでした。私に学習するチャンス、夢を叶える一歩をくださり、本当にありがとうございました。（バウチャー利用者）

コラボ・スクール大槌臨学舎

コラボ・スクールの先生方は教えるということだけでなく、いろいろなことを話してくれたり、相談にのってくれる、私にとって大きな存在です。進路の相談などにのってもらっているおかげで、早い段階から深く考えることができました。たくさんコラボ・スクールを利用し、勉強面と共に心の面でも成長していけたらいいと思っています。（藤原里緒菜 大槌中学校3年/2014年当時）





コラボ・スクール女川向学館

2015年3月のJR女川駅新設に合わせるかのように町全体が整備され、学ぶ場所も整いつつあります。しかし、震災直後とはまた違った新たな課題が、ここ女川には潜んでいます。「いま、求められているもの」を常に意識し、学校や教育委員会と力を合わせ、未来を切り拓く子どもたちを応援し続けていきたいと思っています。（遠藤博子 運営・教務サポート）

個人からのご支援

継続的に毎月寄付を
くださるサポート会員
（呼びかけ人）
約1,000名
（2015年3月末時点）



伊月 和夫
株式会社日立製作所
金融システム事業部

私はあなたたちのしんどさを支えるお手伝いしか出来ません。でも、立ち止まっても、休憩しても、回り道しても、私はずっとずっとあなたたちの味方です。これから先もエールを送り続けていきます。勇気を持って自分の信じる道を歩んでください。



関根 郁夫
埼玉県教育委員会教育長

あなたは、あなたの隣にいる人たちにとっての希望です。あなたは、先を行く人たちにとっての希望です。あなたは、後から来る人たちにとっての希望です。誰もが誰かの希望なのです。だから、支えてもらって、支えてあげて、一緒に前を向いて歩いてゆきましょう。



奥井 伊都子
JFEエンジニアリング株式会社

子供たちの将来のために、微力ながら支援させていただきます。



酒井 穣
株式会社BOLBOP
代表取締役CEO

震災からの復興への「コミットメント」の強度は、僕たち自身で決めることができます。たとえ被災地に直接行って支援をすることができなくとも、支援には様々な関わりかたがあります。



林 由佳
カウンセラー
シンガーソングライター

東日本大震災から4年が経ちました。しかし、復興がまだまだ進んでいないということを、忘れてはいけないと思います。現地の方の声を聞くと、今、震災にあった子どもたちが、自由に夢を語れない状況だと言います。震災で傷付いた人たちの前で前向きな夢を持つことに罪悪感を感じるそうです。そんな話を聞いて、私でも何か震災後の子どもたちのために動きたいと思いました。これからの日本を担う子どもたちの成長に少しでも役に立つことができればと思います。



本田 洋子
3児の母

マレーシア在住です。現地に住む日本人の方々からご献品いただいた不要品を販売し、ハタチ基金に売上金を寄付する活動をコツコツと続けています。子どもたちの健やかな成長を願う気持ちを末長く、海の向こうから届け続けて行きたいと思っています。

ハタチ基金では、継続的な寄付でご支援いただくサポート会員の皆様を、「呼びかけ人」と呼んでいます。人々の震災への記憶も、残念ながらだんだんと風化していきます。そんななか、一人ひとりが身近な方へ呼びかけることも、子どもたちへの支援につながります。

ハタチ基金の「ハタチ」には、「20歳」「20年」という意味と、「葉たち」という意味があります。木の幹（子どもたち）が育つためには、葉（=太陽の光を養分に変える）の存在が必要不可欠です。



平井 豊康
株式会社ソフィア CHO/
Executive Learning Facilitator

被災地支援には継続的な視点が必要だと思っていました。地元の仲間に声をかけたり、会社からも協力させていただくなど、ささやかではありますが、声がけを続けさせてもらっています。



横田 春日
クローバー歯科 副院長

寄付金の使い道が分かりやすいものに、ご協力させていただきたいと思っています。大変微力ですが、継続してお力になることで、子ども達の明るい未来に貢献できれば幸せです。



たなか りか
ジャズシンガー

これから先も忘れることなく、長く支援し続ける為には何をするべきかを悩んでいました。その時にこの支援法を知りました。私一人では微々たる力ですがこの支援の輪がどんどん広がって行くことを祈ります。



白河 桃子
ジャーナリスト/相模女子大学客員教授

ハタチ基金の活動報告会に行き、被災地のニーズが多様化し、また復興への道のりはまだまだ長いということを実感しました。その中で、未来へ向かう力、子どもたちにフォーカスした支援を、着実に進めている皆さまには頭が下がる思いです。東北の子どもたちへの投資は、わたしたちの未来への投資という思いがますます強くなりました。



吉田 紫磨子
NPO法人マドレボニータ認定
産後セルフケアインストラクター

13,9,5,3歳の子どもを育てています。未来を生きる子どもたちが心身ともに健やかに育つことを願っています。日常にうもれて記憶が薄れかねない中、継続して支援できる仕組みづくりをありがとうございます。



佐藤 潤
株式会社ダイナックス
代表取締役社長

東日本大震災の年に長女を授かりました。その子のおかげで私たち家族はとても幸せです。同じ年に生まれた子でも震災で辛い経験をしている子がいると思うと、少しでも何かの役に立てればと考えました。

〈呼びかけ人〉今村 久美、荻野 弘之、関根 郁夫、後藤 健夫、平川 穣、梅村 淳、中原 淳、岡崎 大輔、村松 和彦、山崎 清治、三谷 宏治、中野 真依、山内 悠太、小村 俊平、鈴木 啓太、白井 智子、馬場 学、皆川 司、杉山 達哉、常峰 和生、谷本 勉、大見 勉、足立 瀬津子、吉次 潤、岩井 俊宗、北山 陽一、中山 裕美子、鷲尾 利佳、森 薫、小山 史未子、村田 早耶香、菅原 美智子、篠原 建志、荒川 寛子、村田 一倫、町田 智雄、伊月 和夫、勘高 孝雄、清末 真司、上原 航平、中村 慶子、安田 七海、吉田 紫磨子、大湯 咲子、松江 妙子、川本 純子、酒井 穣、三好 史恵、真鍋 康正、大木 かおり、石田 明、久野 哲、細田 直之、村上 久乃、野中 亮宏、田中 たまき、水野 貴允、宮川 直子、峰松 加奈、泉 朋行、古屋 克己、國領 二郎、山本 龍太朗、渋谷 治美、茅野 和枝、馬越 恵美子、芝原 靖、田島 弓子、波多野 淳、西尾 伸介、小倉 美代子、牧村 雅美、新屋 久幸、新井 清美、町田 あき子、吉村 加代子、斎藤 亜弓、吉田 真奈美、近藤 克彦、神谷 純子、清野 千恵子、篠原 由美、野口 陽子、田村 準、堀越 美紀、中澤 澄夫、山崎 倫代、寺脇 研、グレイネス 敦子、岡本 拓也、山脇 直司、田中 棱乃、河村 昌治、水沼 健、長谷川 里奈、植村 久也、井生 亮一、出町 慎一、高島 由美、庄司 眞、広川 真吾、鈴木 信章、西原 眞人、林 尚志、笠原 しょうこ、大石 一也、山本 薫子、増田 裕幸、斎藤 和幸、鹿野 隆、濵島 成士郎、川端 洋子、掛端 薫、松下 光司、三輪 潤子、山本 由美子、石田 昌宏、浜中 和美、佐藤 尚志、田中 知子、北澤 ちさと、吉本 知子、村松 賢司、小林 紀方、貫井 政文、辻本 敬子、鈴木 厚子、石川 美聡、馬越 太郎、吉村 亜紀子、能島 裕介、山内 明子、下村 信子、大嶋 美弥、平井 豊康、宮内 英子、石田 みのり、鈴木 慶男、松原 眞樹、柳谷 哲也、石垣 路子、富田 英明、野々山 和美、宅明 健太、山口 裕臣、中山 貴美子、野々垣 みどり、金子 孝代、北村 智、霜村 叡真、長谷川 勇紀、米倉 弘樹、石崎 雅士、中川 奈都子、長谷川 美貴子、今林 正嗣、古川 佳子、浦橋 美加、野口 潤、若菜 勉、服部 繁男、國金 美砂緒、荻山 嗣晃、井上 千賀子、中野 純、加藤 和佳子、棚橋 聖子、縄田 和生、田崎 暢貞、田嶋 陵・昌子、小室 泰子、東 佑丞、太田 道之、青木 薫、徳永 忠士、堀口 智、山口 稔、清原 大、本間 純子、森 麻衣子、安田 貴子、松永 忠大、高久 賢次、小竹 政年、高橋 容子、本田 美紀、福地 潤子、鈴江 秀樹、細川 邦子、鈴木 大介、森本 まこと、吉岡 緑、愛甲 ちえ子、伊藤 玲子、菊池 しのぶ、高橋 達也、桐原 意有、熊谷 真希子、岩田 このみ、増田 純平、坂本 一、藤井 朋樹、高根沢 香、島 麻実、齋藤 礼子、李 明炯、窪 雅子、川島 ゆり子、河野 香織、飯沼 文絵、佐藤 朋子、長谷川 智実、平原 由季子、武田 康裕、山白 千津子、中井 眞佐子、海野 奈々美、田中 公子、生島 織夢、高尾 義明、望月 あや、土屋 有、紅谷 昇平、畑中 松雄、田村 美香、本田 洋子、稲本 由紀子、松高 一恵、椙原 ゆみ、高部 裕通、今泉 欣也、小山 聖子、細萱 智大、野澤 紅美、横山 知香、内藤 賢司、ひうら さとる、木根 珠実、藤田 有紀、松田 静子、川崎 環樹、高橋 あづさ、渡邊 太郎、吉田 真紀子、山崎 正枝、島田 成夫、菅井 啓勝、杉原 一臣、一色 隆平、黒田 朋斎、井上 孝之、八塚 絵里、石原 玉美、大山 和寿、草野 康代、宮田 祐子、志垣 有紀子、大塚 雅彦、たなか りか、外岡 周、手柴 孝太、桂 隆博、服部 祥、原田 裕造、太田 智子、大野 泉、川口 崇、濱岡 俊、小室 吉隆、坂井 博明、渡辺 貴久、貫井 猛晶、高村 幸宏、宮原 契子、酒向 笑子、井上 規正、道須 佳恵、大野 里香、神谷 佳子、林 隆、久保田 奈穂子、中谷 吉伸、池田 彩子、中野 充朗、高木 真理子、田辺 彰、高島 啓輔、勝村 和子、脇田 博子、浅井 琢也、京野 玄、伊藤 裕子、木寺 寿徳、守屋 麻、吉田 裕介、工藤 博司、井上 光憲、秋元 祥治、松浦 俊夫、斎藤 薫、高野 昌典、出村 一夫、鈴木 亜紀子、西村 大気、中島 隆文、西 博喜、茅野 博、長山 晴美、高橋 弘行、日下 美穂、阪本 圭、岩嶋 梨恵、佐々木 早苗、大野 早苗、森山 友歌、谷本 悟、鈴木 倫子、八巻 知香子、小高 倫子、新井 睦美、大谷 亜希子、川越 修、戸田 靖子、福岡 八寿子、川村 志げ子、佐藤 洋行、織田 亜由美、伊藤 慎悟、大久保 直之、宮城島 知恵子、出口 善也、力田 春彦、村井 宏行、石田 洋司、小林 智彦、山崎 ゆみ子、中島 徹、村松 邦子、清水 俊子、志村 啓、高橋 直人、向山 武俊、高須 生恵、二瓶 孝浩、齋藤 左知子、重面 武、小林 聖子、北田 隆之、神原 陽平、近藤 安明、山内 伸一、浅見 有紀、猪瀬 美樹、内田 幸栄、初谷 透、石原 典明、タナパット 淳子、横山 元、高山 真理子、小林 尚子、戸崎 優、永田 正樹、芳賀 淳、北川 尚之、加藤 節子、早房 君枝、村松 由美子、奥田 洋子、給前 悟郎、薩山 和子、熊澤 みさき、浅野 信彦、和田 理恵、桐山 賢一、大坪 健雄、伊東 章、佐藤 広子、石川 茂樹、市川 かおる、林 久美、河合 慶子、大田 多美子、小見山 卓哉、水野 清、小阪 由美、桐山 裕文、小石 浩子、早坂 剛雄、菊池 廣平、太田 勇、小崎 太郎、宗像 勝巳、寺町 康子、石井 恵子、篠原 昭寿、近藤 多恵子、山下 千賀子、土屋 奈緒美、小尾 勝吉、川上 文恵、簑部 敏彦、平堀 剛、石川 紀子、金子 浩之、今野 いおり、植木 久一、奥野 友紀、山下 兵衛、石川 浩久、石橋 隆一、堺 寛、田野 梓、前本 由季、渡壁 由季、小池 寛子、鈴木 奈美、村木 美紀子、佐々木 巧、木村 英之、市原 淳子、小倉 雅子、羽田 美佐江、佐藤 剛、長尾 英次、徳永 宏美、御井 玲子、上条 訓之、徳永 良信、山田 佳男、武田 洋子、古澤 法之、外崎 明誠、塚越 淳雄、阿波野 聖一、北澤 聖子、新井 雅美、川島 ひろみ、和田 昌興、大山 順司、石川 文代、藤本 泰世、原 加寿美、池上 未斗吏、杉田 冴子、山崎 千晶、松村 友紀子、堀井 裕司、川嶋 規郎、杉岡 早希子、池田 陽一、中川 浩史、吉村 章、山崎 拓哉、麻田 智奈美、加藤 愛子、小林 洋哉、澤口 真己子、佐藤 寛、中島 幸治、伊藤 正則、白石 禎子、池羽 博・純子、杉岡 ひとみ、鵜飼 恵太、大塚 雅一、畑 登志子、橋本 麻由里、鈴木 綾佳、馬場 真理子、藤原 芳輝、宮松 扶友基、飯田 寛子、稲葉 薫、友野 千英、山口 恵、飯田 博子、菊宮 浩二、川嶋 真里、本間 梨恵、坂本 範光、鈴井 孝史、大滝 直義、芝田 知明、中村 あゆ美、富安 基晴、増田 優貴、山田 裕平、横山 健一、角田 明良、谷中 泰久、高柳 妙、堀田 峰明、石川 淳、坂本 大、安岡 和則、岩崎 亜由美、西村 先見、堤 康之、コルビン 麻衣、平岩 美智代、鈴木 知代子、對馬 啓介、吉村 実由、小原 亜紀子、今福 吉和、藤井 美明、徳森 綾、鈴木 廣平、木部 紗生、高畠 良、浅井 徳明、山本 和花、山本 剛士、伊藤 隆、名倉 啓了、寺澤 伸太郎、池田 洋、白井 和美、三島 聡史、林 幸司、奥井 伊都子、下岡 麻子、金森 詩音、川西 雄一、小泉 利允、山中 祥子、手嶋 亮、小野 健治、安藤 志津子、鳥居 恭好、山中 昌弘、池田 ひろ美、佐藤 美和子、白鳥 祐一、藤下 美保、赤松 美和子、木村 紀之、大平 一雄、佐藤 珠実、米田 祥子、山崎 絵津子、酒井 徳次郎、横田 春日、古川 由己、清野 雅章、山口 有里、杉本 直子、佐藤 潤、栗原 利恵、高林 正美、塚原 敏江、黒田 ひろこ、峠 文子、箕輪 勉、江島 裕司、笠島 明男、宮川 嘉透、竹中 星郎、三浦 希帆、岩越 祥晃、佐藤 順子、岡本 ひで代、石田 聡子、水戸口 恵美、前田 隆一、田中 昭彦、葛西 慈和、分部 雄太、鳥海 恵子、川堀 昌樹、松山 亜紀、落合 秀雄、石橋 和也、島津 順子、竹谷 允宏、佐藤 恭子、當山 啓介、春日 史乃、乗田 かな子、鈴木 浩　※2015年3月末までにお申し込みいただいた方のうち、お名前の掲載を許可いただいた方のみ掲載しております。

企業・団体からのご支援

ハタチ基金では、2014年度、企業・団体様からのご寄付を200件以上いただきました。継続的にご支援をいただく企業・団体様も多く、ポスターやチラシの作成・配布など、子どもたちを支える輪を一緒に広めるためのご協力もいただいております。

サッポロホールディングス株式会社

「恵比寿麦酒祭り」での生ビールの売上などを、コラボ・スクールの運営資金として毎年ご寄付いただいています。

リシャールミルジャパン株式会社

創業者のリシャール・ミル氏が東北をご訪問、チャリティオークションの収益をコラボ・スクールの運営資金として、ご寄付いただきました。

株式会社一ノ蔵

「一ノ蔵 特別純米生原酒 3.11未来へつなぐバトン」の売上金全額を2012年よりご寄付いただいています。

ダイドードリンコ株式会社

地域の活性化を目的とした「地域コミュニティ貢献積立金」を通じて、2011年より継続的にご寄付いただいています。

株式会社ホッタ

長きにわたり社会貢献活動を積極的に展開しており、震災後は継続的なご寄付をいただいております。

アズワン株式会社

株主優待制度の中から、株主様が社会貢献ギフトをご希望された分と優待品の申込みが無かった分の相当額をご寄付いただきました。

●アソシエイテッド・インターナショナル株式会社　●株式会社サンポール　●株式会社オガノ

銀座西並木通り会、J-POWERグループユニオン、松谷商事株式会社、KDDI株式会社、イグス株式会社 広報PR部、Boulangerie-Patisserie ALLARD、株式会社エイトラス、レインボーママン・けいはんな記念公園、株式会社サンベール、株式会社リアル、尾道東ロータリークラブ、有限会社マカアロヒ、株式会社HASUNA、立夏幼稚園、株式会社生活総合サービス、山佐産業株式会社、エンゲージメント・プロジェクト2014、株式会社渡辺潤平社、株式会社エフプランニング、北海道大学医学部41期会、まんまる市、尾張旭ランニングクラブ、おにわ市。事務局、NPO法人Dance Association Seeds、岩国あしなが会、伊料理zoe's、グローバル・ブレイン株式会社、日蓮宗名古屋青年会、Jun Nakano Clayworks、ウェスティンホテル東京、東京土地家屋調査士会世田谷支部、コアスタッフ株式会社、NECソリューションイノベータ株式会社 北海道支社、第2回チャリティー展〜Art for people〜、株式会社ソフィア、Run for Children Tohoku in adidas RUNBASE、うえと salon&bar、ラッセル・インベストメント株式会社、高田馬場 新田歯科医院、加藤千明料理教室、フィットネスサークル「LOVE & PEACE」、株式会社まるじょう、医療法人さき山歯科クリニック、株式会社シイエム・シイ 有志ご一同、株式会社ライフコミュニケーション、寒川パソコン教室 允杜瑠大楽、三生医薬株式会社、山城みそら法律事務所、心の絆応援プロジェクト実行委員会、新東工業株式会社管理部門リーダー会、有限会社ア・エ・リ、有限会社ムーベックス、マキシマム ザ ホルモン …

※その他にもたくさんの企業・団体様からご支援をいただきました。

支援者様からのメッセージ



音楽という触媒を通して、被災地へ温かいまなざしがそそぐお手伝いを、これからも続けていきたいと思っております。これまでのコンサートでは、ハタチ基金の方に被災地での活動報告をしていただくコーナーを設け、その後の懇親会では多くの参加者の方と交流していただきました。

ハタチ基金
チャリティコンサート
2014 実行委員会
堀田 峰明

2012年から継続的に開催されているハタチ基金チャリティコンサート。2014年度も90名超の方にご参加いただき、収益の全額をご寄付くださいました。



“募金を受け取る方々や活動がより具体的にイメージできる団体”に募金をしたいと考え、ハタチ基金への募金を決めました。未来をつくっていく子どもたちが、震災による悲しみから立ち直り、のびのびと成長していけるようにと願っています。これからも機会を見つけて支援していきたいと思います。

NECソリューション
イノベータ株式会社
北海道支社
酒井 麻里

会社内で実施されている懇親会にて、お一人500円のカンパを参加者から集められ、ハタチ基金へご寄付くださいました。

震災が起きたのは私が高校生の時でした。同年代や年下の子どもたちの悲痛な声を聞き、私たちになにかできることはないかと考えていました。この度二十歳になってはじめての社会貢献という形で支援させていただくことになりました。成人に向け、希望を持って1日1日歩んでいってほしいと思います。

徳島県小松島市
成人式実行委員会
野川 真純

成人を記念した事業として、成人式の会場にてハタチ基金への募金を実施し、集められた募金をご寄付くださいました。



この日、チャリティーマーケットに集う皆は子どもたちが夢に向かって歩いて行けるよう心から願っています。自分の夢を諦めず、突き進み、自分の未来を切り開いていってほしい。また、このチャリティーを身近に体感する子どもが将来、支援をより身近に、自然に行える幸せの連鎖を願っています。

レインボーママン

復興支援を目的としたチャリティマーケットを開催され、売上の50％をハタチ基金へご寄付いただいています。レインボーママンは子どもを持つ母親たちが中心となったグループです。



物を作る身としてなにかできることをと考え、チャリティ箸置プロジェクトを始めました。微力ではありますが、被災の辛さやしんどさの鰹寄せを一番受けやすい立場にある子どもたちをわずかでも支えられたらと願っています。箸置総数1,000個を目標に、これからもコツコツと続けていきたいと思います。

Jun Nakano Clayworks
中野 純

陶芸家の中野純様が特別に制作された箸置を全国の個展会場にて1個1,000円で販売。2013年10月からハタチ基金へ売上全額をご寄付いただいています。
http://www.junnakano.com/charity.html



Having an opportunity to contribute to the Hatachi Fund is an honour for us, as it is a time to reflect and remember others in the world especially, when we celebrate special occasions.We hope everyone associated with the initiative can prosper and grow into their independence for their life ahead. The Westin Tokyo is so proud to support the Hatachi Fund.

ウェスティンホテル東京
総支配人
チャールズ・ジャック
General Manager/Charles Jack

ホテル開業20周年という記念すべき年に、ハタチ基金を応援できたことはとても光栄です。このような特別な事を祝う時は、試練に立ち向かっている方々に想いを寄せる時でもあります。子どもたちが活躍し、将来自立して成長していくことを願いつつ、今回支援できたことを心から誇りに思います。

ホテル開業20周年を記念して実施されたチャリティイベントおよびクリスマスのロビーコンサートで集められた募金をご寄付くださいました。



被災地に根を張り、こつこつと着実に子どもたちの未来への道しるべを示し続けているハタチ基金を応援するためにRun For Children Tohokuはこれからも継続していきます。

DJ＆プロデューサー
松浦 俊夫

松浦俊夫さんが発起人となったチャリティランニング・プロジェクト「Run for Children Tohoku」を3月に開催。イベントへの参加費用をご寄付いただきました。



いつか大人になった時、困っている子どもたちを応援できるような優しい大人になってください。

株式会社サンベール
ゼネラルマネージャー
濱松 圭

「Child aid」対象商品をご購入につき計200円（ご購入者100円＋株式会社サンベール100円）が「子ども支援金」として積み立てられ、その中からご寄付くださいました。また、広報誌やSNSなどでもご紹介いただきました。

会計報告

〈ハタチ基金の収支〉 2014年4月1日～2015年3月31日

公益社団法人ハタチ基金引き継ぎ以前のご寄付について

（単位：千円）

科　目	内　訳	金　額
繰越金	2013年度繰越金	133,664
寄付収入		117,955
配分金額	認定特定非営利活動法人フローレンス	52,398
	特定非営利活動法人トイボックス	25,250
	公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン	25,785
	認定特定非営利活動法人カタリバ	94,759
	合計	198,192
残高	**繰越金＋寄付収入－配分金額**	**53,427**

※残高は2015年度に各団体が使用いたします。

〈各団体の支出〉 2014年4月1日～2015年3月31日

公益社団法人ハタチ基金引き継ぎ以前のご寄付について

各事業の総事業費および、その中でハタチ基金からの配分を使用した支出を記載しています。※千円未満の端数は切り捨て掲載しているため、内訳を足した金額と合計金額が異なることがあります。

認定NPO法人フローレンス

●ふくしまインドアパーク 【総事業費】32,798千円　（単位：千円）

ハタチ基金からの支出内訳	金　額
人件費（現地パークリーダー、運営スタッフなど）	20,250
運営費（施設賃貸料、遊具の購入、研修費、旅費など）	5,501
合計	**25,751**

●仙台市小規模保育 【総事業費】34,352千円　（単位：千円）

ハタチ基金からの支出内訳	金　額
人件費（運営スタッフなど）	9,595
運営費（工事費用、施設賃貸料、備品の購入、旅費など）	17,052
合計	**26,647**

NPO法人トイボックス

●みなみそうまラーニングセンター 【総事業費】59,441千円　（単位：千円）

ハタチ基金からの支出内訳	金　額
相談員など人件費	11,290
旅費交通費・車両費	2,872
支援施設運営管理費（家賃・水光熱費・修繕費）	5,911
事業運営費（通信運搬費・委託費・教材費・消耗品費など）	4,322
広報報告費（印刷費・Web関連費）	553
その他（雑費、保険料、租税公課など）	302
合計	**25,250**

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

●学校外教育バウチャー提供事業 【総事業費】96,540千円　（単位：千円）

ハタチ基金からの支出内訳	金　額
バウチャー費	18,049
人件費	2,550
旅費交通費（面談交通費、スタッフ交通費等）	762
調査研究費（アンケート回収用通信費等）	1,374
運営費（事務用品費、利用者募集費等）	1,470
事務所費（水道光熱費含む）	1,578
合計	**25,785**

認定NPO法人カタリバ

●コラボ・スクール女川向学館 【総事業費】90,694千円　（単位：千円）

ハタチ基金からの支出内訳	金　額
人件費（スタッフの雇用など）	10,506
移動・活動費（生徒送迎バス、交通費、宿泊費など）	9,618
教材費・備品・消耗品費（学習設備、事務用品など）	3,402
その他運営費（保険、広報、光熱費など）	14,364
合計	**37,892**

※2014年度のハタチ基金からの配分と前年度の配分の繰越金1,950千円を合わせた支出についての報告です。

●コラボ・スクール大槌臨学舎 【総事業費】84,632千円　（単位：千円）

ハタチ基金からの支出内訳	金　額
人件費（スタッフの雇用など）	10,528
移動・活動費（生徒送迎バス、交通費、宿泊費など）	8,690
教材費・備品・消耗品費（学習設備、事務用品など）	3,044
その他運営費（保険、広報、光熱費など）	14,679
合計	**36,942**

●未来創造事業 【総事業費】13,325千円　（単位：千円）

ハタチ基金からの支出内訳	金　額
人件費（スタッフの雇用など）	1,138
旅費交通費（生徒移動交通費、宿泊費など）	610
会場費（会場・食事など）	35
その他運営費（ワークショップ備品、事務用品など）	1,256
合計	**3,040**

●ハタチ基金事務局 【総事業費】18,835千円　（単位：千円）

ハタチ基金からの支出内訳	金　額
人件費（寄付者対応、事務局運営など）	11,708
旅費交通費（スタッフ交通費など）	296
広報費（報告書、Webサイト作成・管理など）	3,276
その他運営費（光熱費、事務用品費など）	3,552
合計	**18,835**

ハタチ基金は2011年4月より「公益財団法人日本財団」を基金設置団体とし、被災地支援を実施する4つの団体との共同プロジェクトとして活動してまいりましたが、日本財団の参画終了に伴い、2014年10月1日付けで「公益社団法人ハタチ基金」を設立し、2015年1月14日をもって日本財団よりハタチ基金の運営管理を引き継ぎいたしました。引き継ぎ日前日までに日本財団が受領したご寄付については、左ページの各事業に使用させていただきました。引き継ぎ日以降に受領したご寄付については、公益社団法人ハタチ基金が被災地の子どもたちを支援する団体への助成および、基金の継続的な運営管理のために使用させていただきます。公益社団法人ハタチ基金からの第1回助成は2015年度に行う予定です。

〈公益社団法人ハタチ基金 決算報告〉

貸借対照表 2015年3月31日現在

（単位：円）

科　目	金　額
Ⅰ 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	4,422,081
流動資産合計	4,422,081
2. 固定資産	
(1)基本財産	
基本財産合計	0
(2)特定資産	
助成事業特定資金(特)	5,520,968
特定資産合計	5,520,968
(3)その他固定資産	
その他固定資産合計	0
固定資産合計	5,520,968
資産合計	**9,943,049**
Ⅱ 負債の部	
1. 流動負債	
未払金	35,000
未払法人税等	35,000
流動負債合計	70,000
2. 固定負債	
固定負債合計	0
負債合計	**70,000**
Ⅲ 正味財産の部	
1. 指定正味財産	
寄付金	5,520,968
指定正味財産合計	5,520,968
2. 一般正味財産	4,352,081
正味財産合計	9,873,049
負債及び正味財産合計	**9,943,049**

●残高は2015年度に行う事業および、基金の継続的な運営管理のために使用させていただきます。●呼びかけ人の皆様からの継続的なご寄付については一般寄付金とし、被災地の子どもたちを支援する団体への助成および、基金の運営管理などのハタチ基金の活動全般を長期的に継続していくために使用させていただきます。●ご都合の良い時にいただく都度のご寄付については指定寄付金とし、被災地の子どもたちを支援する団体への助成のために使用させていただきます。

正味財産増減計算書 2014年10月1日～2015年3月31日

（単位：円）

科　目	公益目的事業会計	法人会計	合計
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
受取寄付金	4,355,857	162,143	4,518,000
雑収益			
受取利息	0	43	43
雑収益	50,000	0	50,000
雑収益計	50,000	43	50,043
経常収益計	4,405,857	162,186	4,568,043
(2)経常費用			
事業費			
支払手数料	380,318	0	380,318
雑費	1,458	0	1,458
事業費計	381,776	0	381,776
管理費			
支払手数料	0	91,705	91,705
雑費	0	486	486
管理費計	0	92,191	92,191
経常費用計	381,776	92,191	473,967
評価損益等調整前当期経常増減	4,024,081	69,995	4,094,076
当期経常増減額	4,024,081	69,995	4,094,076
2. 経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	4,024,081	69,995	4,094,076
当期一般正味財産増減額	4,024,081	69,995	4,094,076
一般正味財産期首残高	328,000	▲69,995	258,005
一般正味財産期末残高	**4,352,081**	**0**	**4,352,081**
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	5,520,968	0	5,520,968
当期指定正味財産増減額	5,520,968	0	5,520,968
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	**5,520,968**	**0**	**5,520,968**
Ⅲ 正味財産期末残高	**9,873,049**	**0**	**9,873,049**

監査報告書

平成27年6月10日

公益社団法人ハタチ基金
代表理事　今村 久美殿　駒崎 弘樹殿　栗田 智子殿　能島 裕介殿

公益社団法人ハタチ基金　監事　瀧口 徹

私は、一般社団法人ハタチ基金の平成26年4月1日から平成26年9月30日までの会計年度および公益社団法人ハタチ基金の平成26年10月1日から平成27年3月31日までの会計年度における会計ならびに業務を監査するため、帳簿および関係書類の閲覧、理事会およびその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取するなど、必要と思われる監査手続きを実施して財務諸表の正確性および業務執行の妥当性について検討しました。その結果、次のとおり報告いたします。

1. 計算書類およびその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産および損益の状況を正しく示していると認めます。
2. 事業報告書は、法人の業務執行の状況を正しく示していると認めます。
3. 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

代表のおもい



代表理事　今村 久美

震災の痛みを強さに。

被災地の子どもたちに心を寄せてくださりありがとうございます。震災直後のように、多くの人が町を訪れ、人が行き交う風景を見ることも少なくなってきた今、「被災者とよばれたくない」「かわいそうだと思われたくない」子どもたちからそんな声が聞こえることも、少なくありません。一度地獄を見た子どもたちだからこそ、見えづらくなってきた心の痛みをそっと支えることで、それを強みに変えていけるのではないでしょうか。被災地の人づくりは未来の日本の社会づくりだと思うのです。



代表理事　駒崎 弘樹

全国共通の課題に、最も深刻に取り組むべき時。

震災から4年。メディアから被災地の話題は大きく減りましたが、課題はそこにあり続けます。人口減少下において、如何に強い経済を生んでいくか。そんな全国共通の課題に、最も深刻に取り組まねばならなくなっています。我々の支援の形も、変化しなくてはなりません。地味だけど、継続して活動を続けること。地域の経済に資すること。地域の人々が、「自らを助く」ことを助けること。我々は、公益法人となり、粘り強く、底堅く、伴走していきたいと思います。皆さん、ぜひこれからも一緒に闘っていただけると嬉しいです。



代表理事　白井 智子

大きな布でくるむように、子どもたちを守りたい。

被災地にとって一番大切なのは、継続した人と人との繋がりです。それは最初、始めた時は、切れそうな細い糸のようでした。それがだんだん太くなり、今では、まるで布を編むような広がりをみせています。しかし同時に地域の中では、まだまだ苦しい状況があります。皆さんがご支援を継続していただいていること、本当にありがたく思っております。皆さんのご支援は強い糸のようで、その糸で私たちは一緒に布を織っているような気がしております。子どもたちが震えるように苦しんでいる時、その大きな布でくるむように守ってあげられるよう、引き続き頑張りたいと思います。



代表理事　能島 裕介

子どもを支えることは地域の未来を創ること。

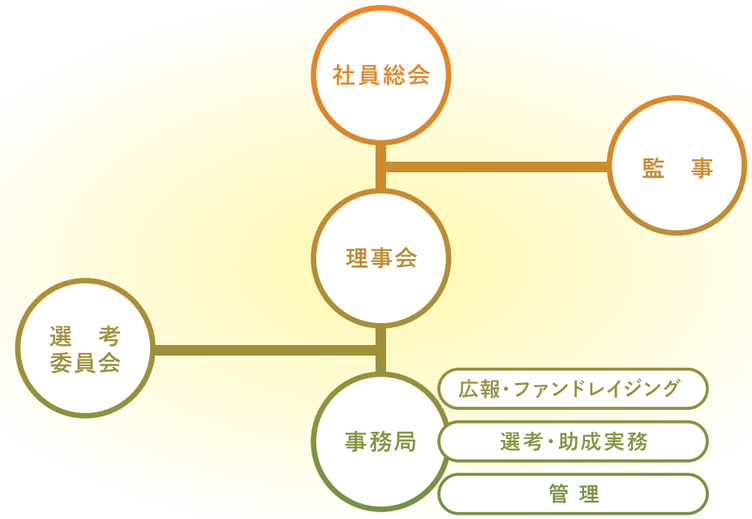
街の復旧は目に見えるけれど、その街を支える人の復興はなかなか目には見えない。だからこそ人を育てることは、なによりも大切だと思います。今から20年前、私は阪神・淡路大震災を契機に、子どもたちを支援する活動を始めました。20年前のあの震災の年に生まれた子どもたちは、今年で20歳。その子どもたちがこれからの神戸の街を支えることでしょう。そんな明るい未来が東北にも訪れることを願いながら、ハタチ基金の働きを支え続けていきます。

運営団体紹介

団体概要

名　称	公益社団法人ハタチ基金
本　部	東京都杉並区高円寺南3-66-3 高円寺コモンズ2F
TEL	03-3330-0005
FAX	020-4665-3239
設　立	2014年10月1日（2011年4月に基金設置）
役　員	代表理事／今村久美、駒崎弘樹、白井智子、能島裕介 監事／瀧口徹

組織図



沿革

2011	2011年3月11日	東日本大震災発生
	2011年4月	公益財団法人日本財団内に「ハタチ基金」を設置 日本財団と被災地支援実施団体との共同プロジェクトとして活動開始
2012		
2013		
2014	2014年10月	日本財団の参画終了に伴い、後継団体として公益社団法人ハタチ基金を設立
2015	2015年1月14日	公益社団法人ハタチ基金が基金運営を引き継ぎ